

眼科専門研修プログラム

地域に寄り添いながら眼科学を楽しみ、
そして究める

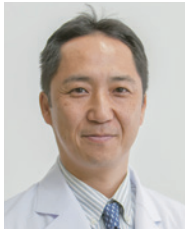
募集定員
4名

研修期間
4年



責任者からのメッセージ

眼科
教授 池田 康博



宮崎大学医学部眼科学教室は、1976年に創設された比較的若い教室です。医局員は28名と多くはありませんが、教授・准教授から研修医までがいつも顔を合わせながら、アットホームな雰囲気の中で日々の診療・教育に励んでいます。広大な宮崎県の眼科医療を当教室が支えています。白内障や緑内障のような一般的な疾患だけでなく、小児眼科、瞼や涙道の疾患などといったあらゆる眼疾患に対し、高いレベルを保ちながら診断から治療までを実践しています。眼科学を楽しめる環境を整備することで、若い先生には少しでも早く一人前に育ってもらい、宮崎県の眼科医療を支えて欲しいと思っています。

プログラムの特徴

眼科疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、内科的治療だけでなく外科的治療も必要とし、幅広い医療技能の習得が求められています。宮崎大学眼科専門研修プログラムでは、以下の眼科医の育成を目指します。

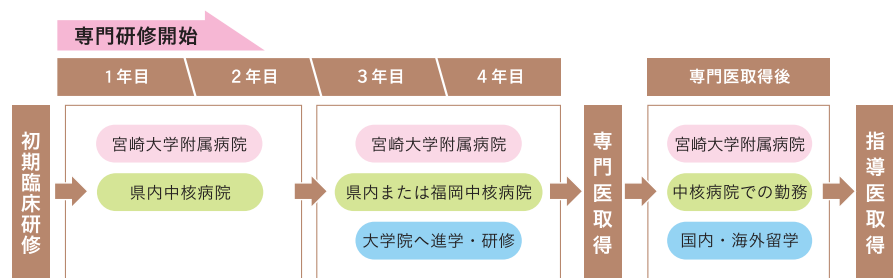
- ① 一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医
- ② 一般診療所の医師のみならず総合病院の眼科医としてやっていけるだけの必要かつ十分な技術を身につけ、将来地域で活躍できる眼科医
- ③ 診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医

連携施設名等

	施設名	指導医	内眼手術（年間）	外眼手術（年間）	レーザー手術（年間）
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	池田 康博 教授、他7名	1,198	513	190
連携施設	県立宮崎病院、県立日南病院、宮崎中央眼科病院、宮田眼科病院、九州大学病院、JCHO九州病院、麻生飯塚病院、九州医療センター				

専門医取得までのタイムスケジュール

4年間の研修期間中、1年目、あるいは2年目のどちらかを専門研修基幹施設である宮崎大学医学部附属病院で研修します。1、2年目は宮崎大学医学部附属病院、連携する県内の中核病院のいずれかで研修を行い、3年目以降は宮崎大学医学部附属病院、県内の中核病院、もしくは福岡県の中核病院で研修します。



取得可能な専門医資格および技能

眼科専門医、神経眼科相談医、眼科PDT認定医

プログラム達成目標

- ① 医師としての基本姿勢・態度、眼科6領域（角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器）、他科との連携に関する専門知識。
- ② 検査、診断、処置、手術、手術管理、疾患の治療・管理に関する専門技能。
- ③ 学問的姿勢。
- ④ 医師としての倫理性、社会性を身につける。

主要症例名と実績数

2025年度の宮崎大学医学部附属病院眼科における手術件数は、白内障手術659件、網膜硝子体手術394件、緑内障手術265件、斜視手術119件、レーザー手術164件、涙道手術78件、角膜移植2件を含む計1,916件でした。これは眼科のほぼすべての領域をカバーしています。さらに県下唯一の大学病院であるため、稀少症例も経験することができます。また県内外の8つの専門研修連携施設においても、common diseaseをはじめそれぞれの施設の特色により集まった多数の症例があり、基幹施設以外でも専攻医として必要な手術症例数を十分に経験できます。

週間スケジュール（宮崎大学医学部附属病院の例）

時 間	月	火	水	木	金	土
午前	・手術 ・専門外来（緑内障）	・病棟回診 ・外来業務 ・病棟業務	・手術 ・専門外来（黄斑変性）（ぶどう膜炎）	休 診	・外来業務 ・病棟業務	・手術 ・専門外来（小児・斜視・神経眼科） ・病棟業務
午後	・手術 ・専門外来（緑内障） ・病棟業務	・外来業務 ・専門外来（未熟児網膜症）（緑内障） ・病棟業務 ・医局会（17時）	・手術 ・専門外来（黄斑変性）（ぶどう膜炎） ・病棟業務	休 診	・外来業務 ・専門外来（未熟児網膜症）（網膜硝子体） ・病棟業務	・手術 ・専門外来（小児・斜視・神経眼科） ・病棟業務

指導医からのメッセージ



医局長 日高 貴子

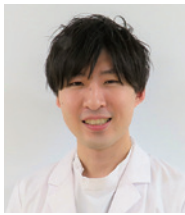
私が眼科を選んだ理由は、手術に携わることができて、幅広い年齢の患者様を診療することができることでした。眼科医になってからは、眼科診療の奥深さ、面白さを感じながら日々精進しております。今指導する立場となり、眼科の魅力を感じることができ、研修医の皆さんの糧となるような指導ができたらと思っています。それぞれ皆さん色々なバックグラウンドを持ちながら働いていらっしゃると思いますが、眼科はそれぞれの働き方に柔軟に対応できる科です。眼科に興味がある先生方だけではなく、どの科を回ろうか悩んでいる先生もぜひ一度眼科で研修してみてください！

先輩からのメッセージ



河野 資之

私は学生実習と研修医の時に顕微鏡を通して見た硝子体手術の美しさに惹かれて眼科を志しました。実際には網膜疾患以外の眼疾患も非常に多く、診療するのは小児から高齢者まで様々であるため、専門医を取得した今でも非常に学びの多い日々を送っております。特に最初は眼科検査や診察は専門性が高く難しいと思われることも多いですが、研修医や専攻医として眼科ローテートすれば必ず身に付いてきます。外来および入院診療、手術研修を通して、経験豊富な指導医がしっかりあなたをリードします。少しでも興味があれば、早い時期に是非眼科の見学や研修にいらしてください。お待ちしております。



外山 直樹

眼科の魅力は、外来・手術・研究のバランスがとりやすい点にあります。外来では画像診断を駆使して効率よく診療でき、手術はマイクロサージェリー中心で奥が深く、技術を突き詰めていくやりがいがあります。研究も画像や数値データが主体で解析しやすく、臨床と直結したテーマが多いため、日々の診療がそのまま研究につながる実感があります。私は宮崎大学の眼科で、1年目から外来・手術・研究すべてに関わることができ、充実した研修生活を送っています。眼科に興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。



吉満 直哉

私が眼科を志したきっかけは、手術が楽しそうだからというシンプルなものでした。実際に眼科医なってみると、2 cm程度の臓器は様々な組織で複雑に構成されており、基本的な手技でさえ想像の何倍も難しく、繊細で脆いためいつもハラハラしながら相手しています。不器用な自分に向いていないのではないかと頭を悩ませましたが、1年が経過し振り返ると、できることは日々増えていき楽しく学べているなと感じます。楽しめている大きな要因に、熱心で優しく指導してくださる先生方や仲の良い同期に恵まれ職場環境が良いことや、診療科の特性上、患者様の改善自覚が得られやすいため、喜びの声を聞きやすいことが挙げられます。手術に慣れてるけど診療科に悩んでいる方はぜひ一度回ってみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先

担 当：日高 貴子

T E L：0985-85-2806
F A X：0985-84-2065

e-mail：takako_hidaka@med.miyazaki-u.ac.jp

眼科 HP

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/ophtha/>

